妬み感情と自己効力感, 孤独感の関係について

○星野諒太¹・谷井淳一¹

(¹ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科)

キーワード: 妬み, 自己効力感, 孤独感

On the relationship between envy, self-efficacy and loneliness

Ryota HOSHINO¹, Junichi TANII¹

(¹Graduate School of Integrated Human Studies, Japan Lutheran College)

Key Words: envy, self-efficacy, loneliness

目 的

望ましいものを所有する他者や集団との比較によって生じる不快な感情は妬みと呼ばれ, 妬みには良性和悪性のものがあるとされている。敵意を帯びたものは悪性妬み, 向上心につながるものは良性妬みと呼ばれる(澤田・藤井, 2016)。その妬み感情は多くの者が経験するが, まだ不明な点も多い。

妬みの生起する強度を規定する要因の1つに獲得可能性というものがある。獲得可能性とは, 他者の優れた性質を自身が獲得できる可能性の認知のことであり, より新しい研究では獲得可能性が高い方が妬み感情が生じにくいとされている(井上・村田, 2014)。この獲得可能性の概念は自己効力感と似た側面がある。本研究で, より一般的な概念である自己効力感と妬み感情の関係を検討することで妬み感情に関する理解を深めることができると考えられる。

また, 孤独感とは菅原(2014)によれば, 他者との望ましい相互作用が欠如した状況に生じる不快感である。妬み感情が他者や他集団との比較によって生じる感情であることから, 孤独感の強さは妬み感情, 特に悪性の妬み感情に正の影響を与えていると考えられる。しかし, 妬み感情と自己効力感, 孤独感を検討した研究は多くない。そこで本研究ではそれらの関係性を検討することを目的とする。

方 法

2017年7月から11月の間に都内の私立大学において質問紙を配布した。分析対象者は記入漏れ等を除いた100名(年齢 $M=21.3$, $SD=5.6$, 男性35名, 女性65名)であった。

自己効力感を測定する尺度として, 成田他(1995)による特性的自己効力感尺度を用いた。

孤独感を測定する尺度として, 諸井(1992)による改訂UCLA孤独感尺度を用いた。

良性和悪性の妬み感情を測定する尺度として, 澤田・藤井(2016)により作成された日本語版BeMasを用いた。

結 果

初めに, 使用した尺度の主成分分析および因子分析(主因子法, プロマックス回転)を行った。その結果, 先行研究とほぼ同様の結果が得られた。次に各尺度間に性差が存在するかを見るため, 対応のない t 検定を行った。その結果, 全ての尺度において有意な性差はなかった。そして, 男女別で各尺度間の相関係数を算出した(表1)。また, 男女別でステップワイズ法による重回帰分析を行った(表2)。

男女別で算出した相関係数の値を見ると, 孤独感と良性和悪性妬み感情との間に違いがある。また重回帰分析の結果から, 孤独感は男性では悪性妬みに負の, 女性では良性妬みに正の影響を及ぼしていた。また自己効力感は男性では良性妬みに正の, 女性では悪性妬みに負の影響を及ぼしていた。

表1 男女別の各尺度間の相関

	1	2	3	4
1 自己効力感		-.68 **	-.47 **	.34 *
2 孤独感	-.60 **		.67 **	-.20
3 悪性妬み	-.40 **	.28 *		.11
4 良性妬み	.31 *	-.41 **	.13	

** $p<.01$ * $p<.05$ (上三角:男性 下三角:女性)

表2 良性及び悪性妬みを目的変数とする男女別重回帰分析

	男性		女性	
	悪性妬み	良性妬み	悪性妬み	良性妬み
自己効力感	—	.34 *	-.40 **	—
孤独感	.67 **	—	—	-.41 **
R^2	.44	.12	.16	.17
調整済み R^2	.43	.09	.15	.16

** $p<.01$ * $p<.05$ 100名(男性35名 女性65)

考 察

以上の結果から, 妬み感情に対して, 孤独感と自己効力感の影響があること, その影響の在り方には男性と女性で違いがあることが言える。

本研究の限界として, まず調査協力者の問題が挙げられる。特に人数は100名であり, うち男性は35名であった。また本研究は単一の大学の学生を対象に調査を行っている。このことから, 結果を一般化するには本研究が不十分な可能性がある。しかし, 少ない調査協力者のなかでも有意な差があったことから, ある程度有意義な研究となったと考えられる。今後は, 人数などを十分にした研究が望まれる。

引用文献

- 井上裕珠・村田光二(2014). 獲得可能性が妬み感情に及ぼす影響 心理学研究, 85, 1-8.
- 諸井克英(1992). 改訂UCLA孤独感尺度の次元性の検討 人文論集, 42, A23-A51.
- 成田健一・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・長田由紀子(1995). 特性的自己効力感尺度の検討——生涯発達利用の可能性を探る—— 教育心理学研究, 43, 306-314.
- 澤田匡人・藤井勉(2016). 妬みやすい人はパフォーマンスが高いのか——良性妬みに着目して—— 心理学研究, 87, 198-204.
- 菅原健介(2014). 孤独感(loneliness). 下山晴彦(編), 心理学辞典 誠信書房.